

数楽通信号外 夜間中学全国大会記念岡山をオリエンテーリング

① 日本初のテーマパーク「亜公園」

夜間夜間中の大会がいよいよ開幕します。

表町の夜間中校舎の附近は、岡山カルチャーゾーンとも言われ、岡山城、県立美術館、オリエン特美術館、林原美術館、県立図書館など文化施設がそろっています。この一体を江戸時代の古地図などを調べる活動も予定されているようです。そこで、数楽通信号外でも、この一帯の事を紹介してみます。まず、



亜公園写真

明治時代には、このカルチャーゾーン、天神山一帯に一大テーマパークがありました。その場所は現在、岡山県立美術館、RSK山陽放送新社屋、オリエン特美術館となっているところです。まず、天神山という名前の由来から。天神といえば、天神様、菅原道真公ですね。平安時代、天神あたりは、旭川の河口で、瀬戸内海といってもよいようなところでした。のちに、岡山、石山、天神山と呼ばれる三つの丘は、島だったようです。

そして、天神山の由来は、天満宮すなわち天神社があったからです。それは今、岡山神社に合祀されています。太宰府に流される菅原道真の一行の舟が休憩をした場所との言い伝えもあり、それで天満天神が祀られたとの説もあるようです。時代は移り、明治中期、学校・役場等の建設ラッシュで財をなした材木商、片山儀太郎が登場します。彼は岡山財界で活躍し、天神町に菅原道真をテーマにした日本初のテーマパークといってもよい公園を開園しました。道真は園全体のテーマで、各施設には菅松楼、天神座、天神茶屋といった道真にちなむ名称が付けられました。その公園は、岡山が誇る「後樂園」に次ぐ公園として、「亜公園」と命名されました。中心に東京・浅草の「凌雲閣（十二階）」をまねて建てた八角形の高さ33mの七階楼「集成閣」がそびえ、周辺を劇場や旅館、遊技場や飲食店劇場、ビリヤード場、射的場、写真館などが囲む斬新な総合娯楽施設でした。遙か瀬戸内海までも見渡せる景観と山陽鉄道の開通も相まって京阪神からも多くの来園者が集まり、片山は2年で元が取れたと豪語したという話です。亜公園と片山氏宅との間に、私設電話がとりつけられたのが、岡山におけるモシモシの第一声とのことです。（明治25年3月1日）『岡山巷談』（小橋基夫、岡山新聞社、1961年）

しかし、日清戦争後の株の暴落で、片山儀太郎が借財を作ったために、この公園はわずか5年ほどで閉園となりました。天神山「甚九郎稲荷」には、「亜公園集成閣」跡を示す碑が残されています。甚九郎稲荷の巨岩は亜公園から移ってき、中央にへこみがあり、学問の神である菅原道真から、硯をモチーフにしたものです。



甚九郎稲荷「亜公園集成閣」跡埵

また、「日露戦争」勝利後の1905（明治38）年、岡山では図書館建設の気運が起り、「亜公園」のシンボルタワーで「集成閣」の1～3階部分を改修し「戦捷（せんしょう）記念」の名を冠した図書館としました。この図書館は幾度かの改称、移転を経て後 戦後に「岡山県立図書館」戦捷記念県立図書館へと発展していきます。

①**亜公園跡埵** を探してみましょう。

② ノーベル賞真鍋先生の数式が壁に書いてあるホテル

岡山自主夜間中のすぐそば、天神町に昨年ノーベル賞を受賞した米プリンストン大上席研究員真鍋淑郎先生が、気候変動研究に用いた方程式を壁面に描いたホテル「A & A リアムフジ」があります。「真鍋は同僚の研究者とともに、地上から成層圏までのあらゆる地点に適応可能な気候モデルを生成するための最適な方法を模索し、必要な気象学的方程式が導き出しました。このホテルは彼へのオマージュであり、彼の多大なる貢献への敬意を示すものです。



A&A Liam Fuji The Manabe Equation House

この方程式は優美であると同時に機能的で、温暖化という問題について、人々にそれに関わる科学的根拠や研究に目を向けてもらうことを意図しています。地球温暖化は政治的な問題ではなく、純粋に数学を通じて分析・理解することができるのです。何よりも、現代において行われている気候分析を支える科学や数学的理論が、実は50年も前に導き出されたものであるということを知ってもらいたい。」と、このホテルを設計した芝浦工業大教授原田真宏氏（マウントフジアーキテツスタジオ主宰建築家）は述べています。コラボした現代美術アーティストのリアム・ギリック氏は、「我々は、話し合いから建物の構造や詳細を設計し、その正面に私が真鍋淑郎の研究成果としての数式を加えた。真鍋の考えを反映するかのように、建物はシンプルであると同時に複雑でもある。この方程式は数学という国境の無い、普遍的な言語を用いている。」と数学の特質にも触れたコメントを載せています。

② 「A & A リアムフジ」 天神町 を探してみましょう。

③ 天満屋の「不思議の国のアリス」の像

岡山には天満屋という百貨店があります。女子駅伝、マラソンの強豪として有名で、5人のオリンピック選手を輩出しています。この天満屋の名もも、菅原道真公の所縁と言えないことはありません。ところで、この天満屋にはアリスの広場があり、ここは夜間中の集合場所としてよく使われました。このアリスについて、知っていますか?名前を聞いたことがあるという人は多いと思いますが、その本をちゃんと読んだ人は案外少ないと思います。アリスは、



天満屋前Aliceの像

児童文学のベストセラー「不思議の国のアリス」"Alice in wonderland"の主人公の女の子です。この本の作者は、イギリスのルイス・キャロルですが、これはペンネームで、本名チャールズ・ドジソン。実は、オックスフォードの数学・論理学の教授です。「不思議の国のアリス」を読んだヴィクトリア女王が他の本も読みたいとキャロルに言った所、数学の本が送られてきて、びっくりしたという真偽不明の逸話も伝わっています。キャロルは「不思議の国のアリス」の続編「鏡の国のアリス」他、幾つかの作品を書いています。論理学の先生らしく、どれもナンセンスなユーモアにあふれています。この号を書くために調べていて、気づいたのですが、今回、校舎を提供していただける「いろはみせ・BOX」

様はカバンを取り扱っておられますが、キャロルは作品中で「かばん語」と呼ばれるようになった、いくつかの語をくっつけて、一つの造語を作る手法も編み出しています。例えば「バターを塗ったパン」「bread and butter」と昆虫の「蝶」「butterfly」とをくっつけて、「breadandbutterfly」などです。英語を勉強しようという人は、「不思議の国のアリス」や「鏡の国のアリス」「Throug the looking glass」で「カバン語」を探してみるのも良いでしょう。パズルで有名なアメリカのマーチン・ガードナーも、アリスに隠された数学的趣向を解説した「注釈つきアリス」(邦訳あり)を書いています。

③「不思議の国のアリス」の像 天満屋百貨店前 を探してみましよう

④山田耕筈とピンポン

「赤とんぼ」「からたちの花」などで知られる作曲家・山田耕筈も少年期を岡山で過ごしました。高校の後輩たちが、耕筈がかつて散歩した岡山市北区石関町に2020年に顕彰碑を建てました。山田耕筈は、先日まで行われていた全国高校野球選手権大会(甲子園大会)の入場行進曲も作曲しています。耕筈の岡山との縁は義兄の英語教師



山田耕筈顕彰碑

ガントレットによって結ばれました。イギリス出身のガントレットは明治23年来日。岡山第六高等学校、東京商科大学などで英語、ラテン語、速記を教え、語学教育のほかにもパイプオルガンの演奏家として日本のオルガン界に大きな足跡を残しました。岡山ではエスペラント(人工国際語)の普及にもつとめました。ガントレットの受講者には、上代淑(山陽高等女学校校長)、社会主義者の大杉栄、山川均などがいました。ガントレットは婦人運動家として知られる耕作の姉、山田恒と結婚しました。(日本での正式な法的国際結婚の第1号)。ガントレット夫婦の住む岡山に、山田耕筈は15才の時、来ました。体の弱かった耕筈の健康を願う恒の考えと、音楽に興味を持つ耕筈を指導しようというガントレットの好意からだったようです。耕筈が岡山で過ごしたのは東京音楽学校入学までの数年間でした。しかし、この間ガントレットは耕筈にオルガン、山登り、語学、英習字、ピンポンと実に多くのことを教えました。ピンポンはガントレット夫妻の寄宿していた「三友寺」の本堂で指導を受けたと耕作の回想録に書かれており、日付を見ると日本初ではなかったかと言われています。岡山電気軌道の門田屋敷停留場から50m東、山陽学園高の北側にある「三友寺」の山門に向かって左手前に「ピンポン伝来の地岡山」と刻まれた石碑が建っています。この記念碑は山田耕筈の生誕120年を記念して、岡山県の卓球協会が建立したものです。

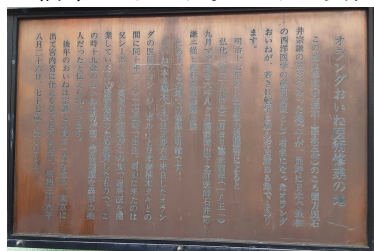
④ 山田耕筈の顕彰碑を探してみましよう(岡山神社近く) 余裕があれば「ピンポン伝来の地」の碑も(山陽学園北西)

⑤宇田川榕庵と珈琲とオランダお稲

日本は明治維新前、幕末頃から蘭学(オランダ語)を通し、西洋の進んだ文化、学術を取り入れました。それまで日本の学問になかったような新しい考え、概念(concept)には、漢字を用いてもとの言葉の意味になるべく近い訳語を作



りました。ここでも、岡山の先人が活躍しています。幕末の津山藩藩医で蘭学者(オランダ語)、宇田川榕菴は元素、酸化、還元、溶解、分析といった化学用語、酸素、水素、窒素、炭素、白金といった元素名や細胞、属といった生物学用語を考え出しました。珈琲には漢字そのものを考案したということです。さて、岡山自主夜間中のあるのはオランダ通りです。蘭学と関係あるのでしょうか? 「オランダお稲」をとという名を聞いたことがありますか? 「オランダお稲」は、シーボルトの娘です。シーボルトはオランダから1823年長崎に来日し、鳴滝塾を開設して日本人に西洋医学を教えました。日本女性との間に生まれたのが楠本イネです。イネは女医を志し、19才から岡山市内に移り住み、



七年岡山の石井宗謙のもとで産科医術を学び、その石井宗謙の居宅があったのがこのオランダ通りです。岡山日蘭協会は表町商店街で、4月初めに「オランダおイネ花まつり」



楠本高子

を行っています。イネの娘は、楠本高子といい、とても

オランダおいね銘板 美しい方だったようで、その写真を見て漫画家の松本零士さんが銀河鉄道999のメーテルのモデルにしたとも言われています。

⑤ **オランダお稲の銘板** (下之町商店街事務所横)を探してみましょう

⑥ **熊沢蕃山と蕃山町、伴池**

岡山自主夜間中から、岡山電気軌道路面電車の走っている桃太郎通りを越えた辺りは、蕃山町と言います。この名は江戸時代前期に活躍した岡山藩の陽明学者、熊沢蕃山に因んだものです。蕃山は初代岡山藩主池田輝政の孫である池田光政の小姓役として出仕します。しかし、島原の乱に参陣することを願い出たが受け入れられず、一旦は池田家を離れ、中江藤樹の門下に入り陽明学を学びました。その後、再び岡山藩に出仕、池田光政は陽明学に傾倒していたため、藤樹の教えを受けていた蕃山を重用しました。蕃山は全国で最も早い藩校といわれる「花鳥教場」の中心となり、その「花園会」の会約を起草し、これが蕃山の致仕後の岡山藩藩学の前身となったと言われます。承応3年備前平野を襲った洪水と大飢饉の際、光政を補佐し飢民の救済に尽力し、津田永忠とともに光政の補佐役として岡山藩初期の藩政確立に取り組み、零細農民の救済、治山・治水等の土木事業により土砂災害を軽減し、農業政策を充実させました。しかし、大胆な改革が守旧派の反発を買い、岡山城下を離れ、知行地の和気郡寺口村(現・岡山県備前市蕃山)に隠棲を余儀なくされました。岡山城下の屋敷があった場所は、現在、岡山市北区蕃山町となっています。隠棲後の熊沢蕃山宅跡は和気町にあり、「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」の構成文化財として日本遺産に認定されています。岡山市蕃山町には岡山藩学校が置かれていましたが、藩学校の講堂や校庭は明治以後は岡山師範学校が使用、その後は女子師範学校が引きついで使用しました。また国宝ならびに史跡に指定されましたが、岡山空襲による戦災で大部分が焼失。現在は校庭にあった「伴池」という池だけが史跡として残っています。現在は岡山市立岡山中央中学校として、伴池は**中学校敷地の南西端**にあります。

⑥ **岡山藩校にあった伴池**を探してみましょう

